

2021/3/30

# リトルハウス通信

本年度もあと1日を残すのみとなりました。

本年度は、コロナ渦の中で、どのようにリトルハウスを運営していくかが、一番の命題でした。しかしそんな状況でありながら、リトルハウスへの利用希望者が大幅に増加した年度でもありました。

私どものような就労継続支援 B 型施設の利用を希望される場合、福祉事務所の保健師さんや地域の計画相談員さん、クリニックのワーカーさん等を経由して利用相談を受ける場合がほとんどです。

その後ご本人に来所頂いて、施設見学をしてもらうと同時に、施設の特徴や本人が抱えている悩み、求めているニーズを確認し「本人の意思」によって、入所が決まります。

リトルハウスは就労を支援する「場」であり、ここでの経験を通じて、利用者の皆さんが自立した生活を目指す「場」です。しかしそれ以上に、住み慣れた地域の「居場所」の役割が大きいと私たちは考えています。

「居場所」とは「自分が存在する場所」と言い換える事もできるでしょう。それは自分の存在が認められた場所、という意味です。リトルハウスは、生産性の高さや付加価値を生み出す能力によって、居場所を獲得するところではありません。

もちろんリトルハウスで提供している作業を効率よく丁寧に完了させる事は、非常に大きな「価値」です。しかし一方で、朝ベッドから起き上がり、苦しい心を引きずるようにして、必死な思いでバスに乗り、リトルハウスにたどりつく事。それも非常に大きな「価値」です。

そんな一人一人が持っている多様な「価値」を認め合う事で、リトルハウスは「居場所」として成立しているのではないかと考えています。

私たちは入所希望の方に対して、リトルハウスが「居場所」と感じられるかどうかを「本人の意思」によって判断して頂くようにしています。

そして居場所としてリトルハウスを選んで頂いたならば、我々職員は、ニーズを救い上げ、ひとつでも多くの「価値」を利用者の方々から見付けたい思いがあります。

この方針は来年度になっても継続していきたいと強く思っています。 （鈴木）